

2013

R 労災かわらばん

— 初秋号 —

Vol.38 発行日／平成25年 9月17日 編集／釧路労災病院新聞局

第3回 高校生医療福祉体験セミナー inくしろ地域

経営企画課長 関 吉章

7月27日(土)当院で、高校生を対象とした医療福祉体験セミナーを60名が参加し開催されました。これは、北海道北海道移植医療推進協議会釧路支部、当院の共催で地区の高校生に実際に医療現場を体験してもらい、今後の進路選択や釧路地域の医療の担い手の必要性を知ってもらうこと、そして移植医療の周知が目的です。

はじめに宮城島拓人副院長より釧路地域における医療の状況等の講演があり、続いて小笠原副院長が座長を務め、「いのちと関わる仕事の選択」と題し、職員からは医療人になつたきっかけや意義など高校生の将来の夢や悩み・不安など活発なパネルディスカッションが行われました。

その後現場体験が行われ、労災病院職員の他、釧路の未来を考える会などボランティア団体の皆様のご協力により、内視鏡操作、外科縫合、吸引口腔ケア、生理・血液検査、CT・MRI、リハビリ模擬、人工呼吸器・AED、調



▲ 最初のミーティングで緊張をほぐす…？



▲ 大腸カメラの様子

剤・無菌室体験、脳死判定移植コーディネーターと多岐にわたるメニューを高校生に体験して頂きました。1時間30分の中で、決められた3つを体験しました。限られた時間の中で多くの高校生に医療を感じてもらおうべく、各部署の職員総出で体験をサポートしました。

高校生からは、
・静脈注射の体験ができ、改めて看護の道に進みたい。
・手洗いの体験では、洗ったつもりでも汚れが落ちていないことに驚いた。
・手術の模擬体験で、褒められうれしくてテンションが上がった。
・人工呼吸器を装着してみても、患者さんの大変な気持ち

が理解できました。
・医療機器がすごく高いことや、数万円もするものを使い捨てでびっくり。
・進路は医療関係と考えているので、とても貴重な体験ができた。

体験終了後に職員と高校生によるグループディスカッションを行いました。高校生たちが感じたことや、今後の目標、医療人の先輩に聞きたいことなど積極的な意見交換が行われました。

今後、この地域での医療の道を志す高校生が増え、実際に医療の担い手として活躍してもらい医療機関の充実が図られ地域医療に貢献できるよう、当院のみならず、その他市内病院も協力し釧路地域が一体となり今後もこの事業を続けていくことが重要と考えています。



▲ 初めて注射器を持って採血体験



▲ 針と糸、縫合体験

病気のお話し 認知症って!?

神経内科 白井 慎一

認知症とは、脳の働きの障害によって、物忘れや判断力の低下が起きる病気です。アルツハイマー病や脳血管性認知症が多いですが、その他にも神経変性疾患や内科的疾患、初老期うつにより認知症の様な症状を呈していることもあります。中には早期の診断と適切な治療で症状の回復が期待できるものもあります。人は歳を取るともの忘れをするようになりますが、老化によるもの忘れは体験の一部を忘れるだけです。が、認知症によるもの忘れは体験の全部が忘れてしまふことが特徴です。また、老化によるもの忘れは進行がゆっくりで、日常生活に支障を来さないことが多いですが、認知症によるもの忘れは進行が早く、多くが日常生活に支障を来します。また、もの忘れや見当識障害(いまがいつか、どこにいるのかわからなくなる症状)のように認知症で必ず出現する症状(中核症状)の他、妄想、幻覚、不安、徘徊などの行動・心理症状が出現することもあります。

検査では問診、診察で認知症の有無を確認し、神経症状や血液、脳の検査で原因を調べます。認知症と診断されても、進んでしまった記憶障害や判断力の低下を元に戻す治療法はないのが現状です。治療は、進行を遅らせる薬が使われることもありますが、それと同様に、残っているからだや精神の機能をできるだけ維持することを目的に介護やケア、心理療法などを行うことが大切です。多くの研究から、認知症の危険因子として、高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙があり、予防として、定期的な運動、規則正しい食事、社会参加が挙げられています。食生活や運動などの生活習慣に気をつけましょう。

